

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|-----------|-----------|
| 事業所番号 | 2490100159 | | |
| 法人名 | 有限会社 スイート | | |
| 事業所名 | ケアパーク和月 グループホーム | | |
| 所在地 | 三重県桑名市大字太夫123番地2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年6月8日 | 評価結果市町提出日 | 平成24年9月6日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_021_kani=true&JigyouvoCd=2490100175-00&PrefCd=24&VersionCd=021 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 三重県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 津市桜橋2丁目131 |
| 訪問調査日 | 平成24年 6月27日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桑名市中心街の閑静な住宅地に、地域の方のご理解・ご協力の下、ケアパーク和月として3施設(デイサービス・グループホーム・小規模多機能ホーム)あり、介護が必要な高齢者を段階的にかつ複合的に支援している。グループホームはご入居者が主体であることをいつも念頭に、職員が積極的に手を出すのではなく、ご入居者が自らの能力を使って、自立した生活ができるように、「待つケア」を心掛けている。生活支援＝自立支援の視点を重視し、出来ない所を、さりげなく支える様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桑名市の便利で閑静な住宅地に位置し、事業所の南には大夫の大樟(桑名市指定天然記念物)、北には伊勢大神楽(国指定無形民俗文化財)で有名な増田神社に隣接しており、四季の移ろいを感じられる自然豊かな恵まれた環境に立地している。ケアパーク和月(グループホーム・デイサービス・小規模多機能)の敷地はゆったりとしており、建物も落ち着いた生活空間になっている。認知症介護の深い知識と豊富な経験を持ち、利用者・職員ともに全幅の信頼を得ているベテラン看護師でもある代表者のもと、グループホームの理念『御入居さまを敬い、秘められた力を引き出して、その人らしさを大切に、さりげなく支えます』を介護経験・現場経験豊かな施設長・職員共に実践し、利用者を温かく支援している。昼食用の玉葱を調理していた102歳の利用者を見守る職員の眼差しも優しく、家族からも感謝の声が多く届いている。法人理念「いつまでもその人らしく輝いて生きること」を目指し、『待つケア』を実践している和やかな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 朝の申し送り時、定期的に理念を唱えている。理念の4つの柱をひとりひとりが確認し、常にその思いを意識しながら業務につくよう努めている。 | 毎朝の申し送り時(8時50分～9時)やフローごとの定例会議時に確認し、これに基づいて日々の実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自主的に地域の清掃活動を月1回行っている。自治会行事に参加したり、毎朝のゴミ捨て後、地域を散歩しながら普段から交流を図っている。近隣の方には事業所の行事にも参加して頂いている。 | 開設1年目の事業所であるが、自治会に加入し、地域の清掃活動も自主的に行っている。近隣から、新鮮な野菜や果物が届いたり、散歩時などに日常的に交流し、地域とのつながりを大切にしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方々の相談や見学等、随時対応している。運営推進会議を通して、スライドショーで笑顔の表情をされている場面の声かけ、促し方等お伝えしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | スライドショーを通じて日々の様子を紹介している。各場面場面での感想を頂き、ご家族、自治会長、民生委員、行政の方々の意見や助言をその後の支援に生かしている。 | 2ヶ月に1回、第3金曜日15時から運営推進会議を開催している。利用者の方々の日々の生活をパワーポイントで作成して見ていただき、会議参加者からの意見をサービス向上に活かし、自治会長や民生委員の方々の協力を得て地域の理解と支援を得るように取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 困難事例等、まずは市担当者に相談している。ご家族にも、市の助言を詳しく説明する事で、安心して頂いている。 | 施設長・介護支援専門員は桑名市高齢福祉課や包括支援センターとは困難事例や各種申請・更新時に協力関係を築くように取り組んでいる。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 基本的には夜間のみ施錠する。徘徊時にも寄り添う介護を行っているが、不穏な状態の方の安全を確保する為に、やむ得ず施錠をさせてもらう事がある。 | 事業所内勉強会などで、言葉の拘束・身体拘束の内容とその弊害を理解して、ケアの場面・場面で拘束をしないケアの実践にむけて取り組んでいる。日中は、施錠しない自由な暮らしを支援している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 入社時のオリエンテーションの中で取り入れている。認知症高齢者の尊厳とケアの実際の中で、高齢者虐待防止法について伝えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在該当されるご入居者はないが、入社時のオリエンテーションで研修内容に織り込んでいる。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 事前に当ホームの運営方針、理念の説明をし、重要事項説明を行う。質問があれば、説明をさせて頂き、ご理解された上で契約の運びしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 月に一度、ウイークリー経過報告を作成し、ひと月の様子をご家族にお伝えしている。その際要望があればプランに反映させていた | 『ケアパーク和月グループホームだより』や『ウイークリー経過報告』を毎月作成して、現状を報告し、ホームを理解してもらいながら、家族が意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。『家族会』を開催するなど、家族からの要望や意見などには、些細なことでも速やかに検討し改善する体制がある。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々の業務の中での発見、提案など随時、申し送りノートを通じて意見を出し合える機会を設けている。その都度チームで検討し必要であれば事業主に相談をする。 | 職員同士とても仲が良く昼食時や休息時に常に話し合っている。施設長は毎日のように代表と話し合える機会がある。申し送りノートで出た意見や提案は施設長から代表に伝えて運営に反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 代表者は、働きやすい職場の環境を常に心掛け、職員の意欲を大切に、やりがいを持って働ける様に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は、内外研修に参加することを推奨し、学んだことを他の職員に伝達することで、全職員が良質なケアが出来るよう努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着サービス事業者、ネットワーク研修会や会議に参加し同業者との交流を図っている。今後は積極的に意見交換し、質の向上に努めていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居時にご本人の要望をお伺いし、それに基づき、最優先されるものをプランの柱としている。本人が意思表示できない場合は、気持ちを汲み取るよう配慮させてもらっている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に、家庭訪問を行い、ご家族の思いをしっかりと聞かせて頂く。入居後は日々の様子を細かくお伝えし、ご家族と共にプランを練っていく。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居され1週間以内に、第1回ケースカンファレンスを行っている。最も必要な支援を軸にし、施設での対応が困難な場合は、他サービスをご案内している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 常に主体はご入居者である。職員はできない事を、さりげなくサポートさせて頂く黒子に徹している。援助を受ける人、する人の関係ではなく、リビングパートナー(疑似家族)として関わっている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族にしかできない役割は入居後も継続して頂く。家族もチームの一員として関わってもらうことは重要と考え、定期的な面会や外出に力を入れている。ご本人とご家族の思いが違う事もあるが、それぞれのお気持ちを尊重している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔働いていたお店や、馴染みの店に外出し、知人と触れ合う機会を設けている。又友人の訪問も定期的に来て頂けるように声を掛けている。 | 馴染みの美容院や、昔働いていた和菓子屋・長島温泉・・・へ出かけ、これまで大切にしてきた関係が途切れないように支援している。お寺・自宅など行ってみたい処への支援も行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 毎日10時のおやつタイムにグループワークとしてご入居者の発言の場を設けている。互いを他己紹介という形で披露される場面もみられ、笑いも飛び交い和やかな時間となっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | ホームで過ごされた姿などをDVDにおさめ、お渡している。ご家族の心理状況等、メールを通じて様子をうかがっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 昔どのように過ごされていたか、年代別のアセスメントを把握し、打ち込んでおられた事、得意な事等、本人らしく自信を持って取り組まれる事を引き出している。 | 利用者一人ひとりの『バックグラウンド・アセスメント生活歴』を作成し、思いや意向の把握に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前訪問を行うことで、今までの環境を把握している。どのような生活を送ってこられたのかを実際に観察させて頂くことで、より正確な情報を把握することができる。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一日の支援経過記録を細やかに記録する事や、申し送り事項を徹底する事により把握している。その時に発した言葉を記入する事で心理状況を細かく掴んでいる。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 各受持ちが月末に報告書を作成し現状を把握してスタッフに報告する。本人、ご家族の思いを確認した上でチームでケースカンファレンスを行い、課題を見つけ、新しくプランに反映させている。 | 担当制(1~2名の方)である。申し送りノートなどを活用して、月末に報告書を作成し、計画作成担当者に報告している。利用者本人・家族に確認してチームでケースカンファレンスを行い現状に即した介護計画作成し、モニタリングもきちんと行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 計画の目標について、どうだったのかを頭におきながら記録をし、徹底する事項等は、更に申し送りノートへ記入してスタッフ間で共有している。笑顔や喜ばしい表現をされた時の描写、言葉などを多く書き留めるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 天然記念物である大楠までの散歩や、無形文化財となっている増田神社への参拝は日々の日課となっており、楽しみでもある。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 在宅時のかかりつけ医の継続治療や、ご入居者ご家族の希望される病院での受診を重視している。必要な時は、支援経過記録を主治医に情報提供としてお渡している。 | 希望のかかりつけ医を受診している利用者には家族と協力して通院介助を行い、受診結果に関する情報の共有を行っている。週1回、歯科医の往診もある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 定期的な看護職の状態観察以外に、体調不良や、傷など看護職の判断が必要と思われる時は、随時報告を行い、受診等適切な指示を仰いでいる。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には施設での生活情報を、医療機関に提供し、定期的にお見舞い、現状を把握している。退院後スムーズに生活ができるよう、可能な限り入院前の状況まで回復して頂けるよう病院との連携調整を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所の際、どうやって最後を迎えたいか等ご希望を伺っている。心身の状況が変わってこられた段階で、ご家族、主治医を含めた話し合いの場を設けている。 | 代表はベテラン看護師である。『重度化した場合における看取りの指針』を作成し、和月における看取り介護の具体的支援内容を説明している。重度化する前から本人・家族と話し合い、事業所が出来ることを説明しながら、方針を共有するように支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | ご入居者の予測される事項に関して、看護職から対応方法の指示を受けている。全ての職員に対して、定期的に応急手当などの対応訓練は行っていない。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の消防訓練を実施し、各入居者別の、避難方法を確認している。普段から地域に出て行き、ご入居者の状態把握をして頂いている。 | 平成23年11月4日に午後2時から初期消火や避難方法を身に付けられる様に『秋季火災避難訓練』を実施している。 | 利用者を昼夜を問わず安全に避難出来る様に、現状の訓練と合わせ、特に職員が手薄となる夜間などに地域の協力を得ての避難訓練を定期的実施されることが望まれる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常にご入居者を敬い、自己決定できるように声かけを行っている。おひとりおひとりの性格に合わせた対応をしプライバシーを損ねないように努めている。 | 重要書類は、その取扱いと管理を徹底している。日常生活に於いては、本人の気持ちを大切に考えて、利用者一人ひとりの方を人生の先輩として、さりげないケアや優しい言葉かけをし、なるべく手を出さないで見守るように職員全員で心がけている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常生活の活動の際には、「どのようにしたらよろしいでしょうか?」「～しましょうか?」等、疑問形にてお尋ねをし、本人に決めていただけるような声かけを行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日の流れに細やかな決め事をするのではなく、ご入居者のその日の希望に沿い、それぞれの時間の流れを大切にしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で服を選んで頂いたり、入浴後化粧水をつけたりされている。その人のご希望に沿い、美容院に行きたいと要望のある時はその都度対応している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事準備の際には、食材を見てもらい、ご入居者に献立を決めて頂いている。作業は自主的に取り組んで頂けるよう意思を尊重し、役割分担をできない部分の支援を行っている。 | 調理の音や匂いなどで五感を刺激し、食事が楽しみなものになるように工夫している。(昼食時、懐かしい音楽がかかっており優しい雰囲気である。)日々の献立は利用者の方々と一緒に考え、調理もできる方が行っている。(職員は後ろで優しく見守り、楽しい食事風景である。) | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ご入居者の病状等に合わせた食事摂取量にし、毎食の摂取量、一日の水分量(1500cc)を目標に摂取を心掛けている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを促し、介助が必要な方ではできない部分の援助を行っている。歯科医師による定期的な口腔状態の把握を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用することで、個々の排泄パターンを把握している。必要な方は誘導することでトイレにて排泄できるよう対応をしている。 | 排泄パターンを把握して、なるべくトイレで排泄できるように声掛け、誘導、見守りなど利用者一人ひとりに合わせた支援を、職員間で共有している。開設1年目の事業所であるが、すでにおむつから自立に向けて改善された方もいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 野菜中心の食生活とし、整腸作用の配合されたヨーグルトを毎日摂取している。1日1500ccの水分摂取を目標としている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | その日の体調、気分により拒否される場合は無理強いしない。必ず自己決定をして頂き、場合によっては足浴、清拭を行い保清を保っている。 | 入浴が楽しみごとになるように、薬湯(どくだみ湯や柚子湯...)など工夫している。また利用者の意向を大切にし入浴できるように支援している。羞恥心や恐怖を感じないような配慮を心掛けている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人の体調や気分に応じて、自由に居室で休んで頂ける環境ではあるが、離床を促す声掛けをしている。BGMを活用したり、採光等の調節で安息を促している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 病名や服薬内容を把握し、変更があった際には、服用後の状態の変化や、気づきを記録に明記し、場合によっては看護職の助言を仰いでいる。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | かつて担っておられた役割を引出し、意欲的に取り組んで頂けるよう、出来る事探しに努めている。畑仕事に取り組んだり、お茶の時間に抹茶を点てもらったり等、個々に役割を持っていただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 毛染めに行きたい、化粧品がなくなったので買いに行きたい等、希望や意向に沿って対応している。季節感を味わって頂けるような、花見やイベントでご入居者の行きたい所に出掛けている。 | 季節毎の花見や・九華公園、イチゴ狩り、ケアパーク和月周辺の神社などへの散歩などの支援に努めている。また外出しにくい方には隣接の小規模多機能サービスのゆったりとした庭園での外気浴など、日常的に戸外に出かけられるように努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を持つことで安心される方には、買い物時には管理していただいている。介助がいる方については、声掛け見守りによりご自分でお金を使っていただく支援をしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙のやり取りの際、その対応方法は考慮が必要な場合があるが、家族とのやり取りの意向を尊重し、対応している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 住まい空間らしく、落ち着いた木目で調和されている。「美しい日本の歌-こころの風景」のBGMを流し、季節の花を飾ったり、皆が自然にリビングに出てこられるように、ゆっくりとリラックスができるソファやリクライニングチェアを設置している。 | 管理者・職員は清潔な共有空間づくりを心掛けており、気になる匂いや音・光の刺激は無く、室温も適切である。気の合った利用者同士がゆったりしたソファで寛いでいる様子や、とてもリラックスして過ごされている方など利用者一人ひとりの安らぎの居場所になるように工夫をしている。職員の声のトーンも穏やかで適切である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビング以外に談話コーナーを設けて、気の合う方と話ができるようにしている。又見え隠れする空間を作ることで、独りになれる居場所作りをしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所時の居室を選ぶ際、その部屋からトイレがどの位置にあるか重視させてもらっている。自宅で過ごしてみえたころの、慣れた導線で動いて頂き混乱のないように配慮している。家具等も使い慣れたものを使用をお勧めしている。 | 大きな窓のある明るい居室は、家族からも好評であり、利用者一人ひとりの状況に応じた環境整備に努めている。沖縄の紅型染めや懐かしい着物のミニチュア・筆筒……、本人が居心地良く過ごせるように工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各所に手すりを設置し、自立支援に配慮している。それぞれの場所が認識できない方には、職員は寄り添った介護を行っている。 | | |